

四組『西六郷小学校で働く人々(1)

～めざせ！インタビュー★マスター～』

単元のめあて

学校で働く人たちとの交流を通して、自分の身近にいる大人の存在に気付き、働く大人への感謝の気持ちをもつとともに、自分が働く将来に前向きな見通しをもって、今の自分にできる役割を見付け、他者と協力しながら果たそうとすることができます。

創造的な資質・能力の素地を育成するための視点

インタビュー活動を通して、分かったことや考えたことを相手に分かりやすく伝えるための言語や情報技術に関する知識及び技能を習得する。

創造的な資質・能力の素地を育成するための手立て

実社会で活躍する人との連携

こどもたちがインタビュー活動に慣れるために、身近な人からインタビューを始めた。また、教師以外の校内で働く方にもインタビューをしたり、働く上での大変さややりがいなどもたずねるようにしたりすることで、仕事＝社会で働くことの意義や苦労、喜びを知り、自分も将来は社会で働くということについて思いを馳せることができるようになった。

四組教師→四組介添員→西六郷小学校の教師→用務主事→事務主事→給食主事→学童の先生

学習サイクルと振り返りの工夫

相手を意識したインタビューを行うために、1対1の「聞き方」「話し方」「質問」という3つの分野に分けてコミュニケーション講座を開き、繰り返し練習を行った。また、活動の直後に振り返りを行い、改善点をこどもたち自身が知り、次時の授業でそこを意識して再度練習する機会を設けることで、着実に自分の力として身に付くようにした。

グループの編成・話し合いの工夫

一人一人が役割をもち、主体的に学習するために、1グループの人数を3人までにしぶって活動を行った。グループ編成では、インタビュー活動が好きな児童と苦手意識のある児童とを組ませることで、インタビュー活動における役割分担をしやすいように配慮した。また、インタビューする相手は、児童が興味関心をもちやすいように、クラブや委員会などこれまでに関わりをもつたことのある教師にした。そして、それに関わりのある児童同士でグループを編成した。

ICTの活用

自分のインタビューの練習動画を見て、良い所や改善点を振り返ることができる。また、インタビューの際、名刺を渡して自己紹介をするための名刺作成等にICTを活用した。

カメラ・動画：インタビュー動画を撮る。

Google：仕事内容などの情報を得る。

スライド：写真やイラストを入れた名刺を作成する。

音声入力、読み上げ：アンケートの記入や検索。

成果と課題

- ・コミュニケーション講座の「聞くこと」「話すこと」「質問すること」の3つの力が簡潔に明文化されていて、児童に受け入れられやすかった。
- ・インタビューの場で、評価やフィードバックができると、めあてや視点に意識が向き、次時への良い活動につなげることができる。
- ・インタビューを受ける側の教師が全体を進めていたため、回数を重ねるごとに児童が自分でインタビューを進めることができるように取り組みが必要である。